

財務の概要

令和3年度は、引き続き施設将来計画を着実に実行した。新病棟建設地として計画している旧校舎棟(中央校舎、北校舎)、および巴記念教育棟増築予定地となる看護学部第1・3校舎棟の解体をすすめた。足立医療センター新病院に関しては、令和3年11月に竣工式典と内覧会が執り行われ、令和4年1月に足立区への移転が完了した。

収支面では、昨年につきCOVID-19関連による収支へのマイナスインパクトは厳しいものであった。更に足立医療センター新病院移転に伴う一時的な診療制限等が大きく影響し、令和4年1月では約25億円の赤字に陥った。

収入に関しては、主な三病院で入院収入において大幅な減収となった。本院では1日平均で46人が減少している。旧東医療センターおよび移転先の足立医療センターでは1日平均で56人が減少。また八千代医療センターも1日平均で43人が減少している。三病院すべてが大幅な患者数の減少となったことで、医療収入は昨年度比で11億5千万円の減収となった。

支出に関しては経営統括理事の主導の下、その直轄組織である経営統括部を通じ引き続き徹底的な経費削減を始め、人件費の適正化等の重要な経営課題に対し根気強く取り組んだ。その結果、人件費は昨年度比で8億4千5百万円下回った。

なお、昨年につき特例的な補助金として国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」としての財政措置により、新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れている医療機関に対する補助金が交付された。本学に対してもCOVID-19関連の補助金として約103億円の補助金が交付され、表面上の基本金組入前収支差額は予算を30億6千4百万円上回る59億8千8百万円の収入超過となった。